

無断転載禁止

国民向けアンケート結果について

本アンケートは、「きいろをみどりへ」特設ページで示した「3つのお願い」に関する認知や受け止めを把握するとともに、国民の皆さまのご意見を踏まえ、国民皆保険制度の維持・持続に向けた今後の広報・啓発活動に生かすことを目的として実施したものです

＜アンケート実施内容＞

実施期間：2025年8月25日（月）～2025年11月25日（火）

回収方法：特設サイトにアンケートリンクバナーを記載

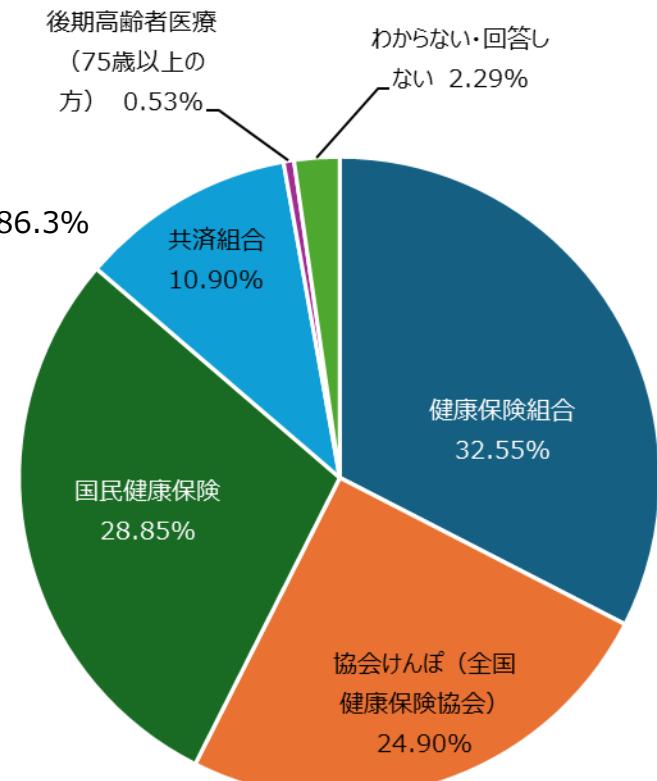
質問数：計10問（健康保険組合の方のみ対象の1問を含む）

回答状況：計8,178件

【1】加入している医療保険の種類をお答えください。

- 「健康保険組合」「国保」の割合がそれぞれ約30%、「協会けんぽ」が約25%であり、「健保組合」「協会けんぽ」「国保」が主な回答者となっている。
- 他には「共済組合」10.90%、「後期高齢者医療」が0.53%あり、幅広い属性から回答を得た。
- 「わからない」「回答しない」は2.29%の回答があった。

種類	数量	割合
健康保険組合	2,662	32.55%
協会けんぽ（全国健康保険協会）	2,036	24.90%
国民健康保険	2,359	28.85%
共済組合	891	10.90%
後期高齢者医療（75歳以上の方）	43	0.53%
わからない・回答しない	187	2.29%
総計	8,178	100%

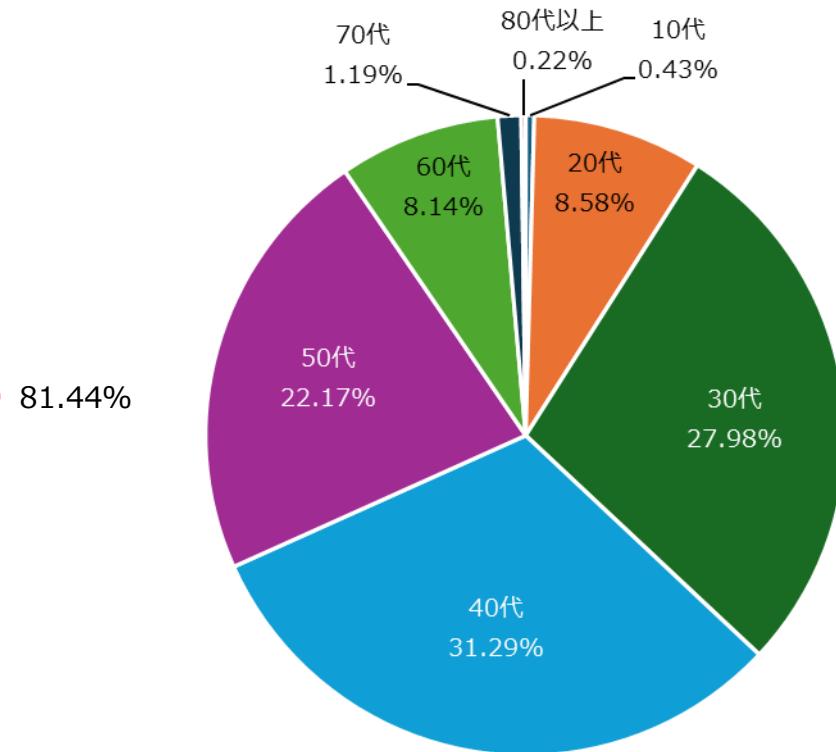


【参考】実際の加入者数（令和7年度予算ベース）
 健康保険組合 = 2740万人 (22.4%)
 協会けんぽ = 3920万人 (32.0%)
 国民健康保険 = 2560万人 (20.9%)
 共済組合 = 950万人 (7.8%)
 後期高齢者医療 = 2070万人 (16.9%)

【2】年齢をお答えください。

- 10代～80代以上まであらゆる世代層から回答を得ている。30代・40代・50代層が合わせて80%を超え、回答者の中心となっている。
- 60代は8.14%と回答はあるものの、大きな割合ではない。20代層が8.58%と60代より回答割合が高い。

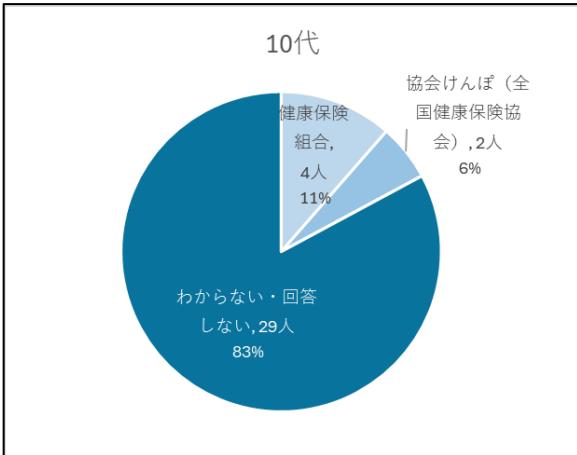
年代	数量	割合
10代	35	0.43%
20代	702	8.58%
30代	2,288	27.98%
40代	2,559	31.29%
50代	1,813	22.17%
60代	666	8.14%
70代	97	1.19%
80代以上	18	0.22%
総計	8,178	100%



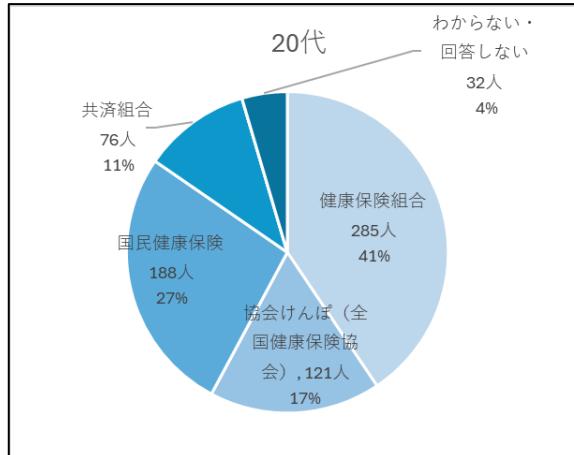
【2】年齢をお答えください。

1. 各年代の保険者種別

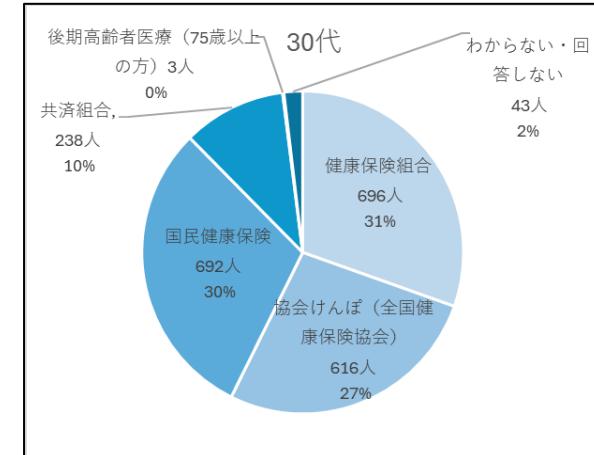
10代



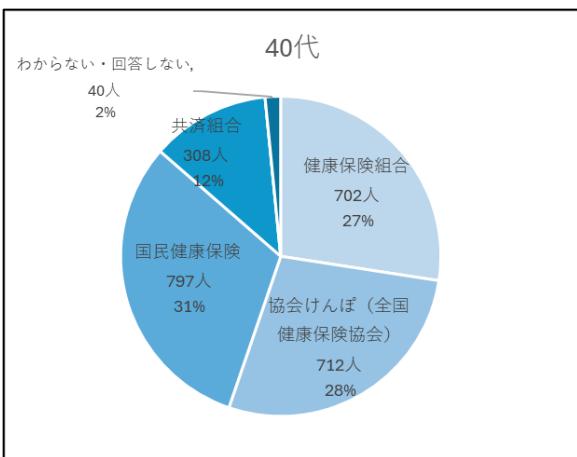
20代



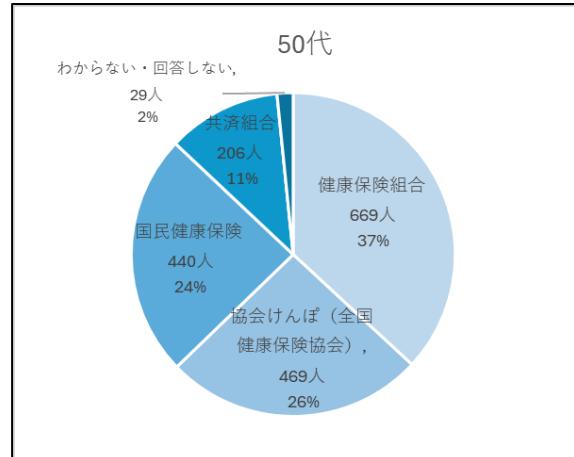
30代



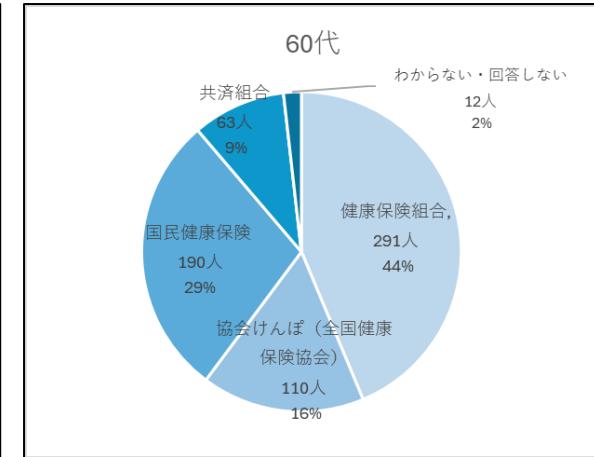
40代



50代

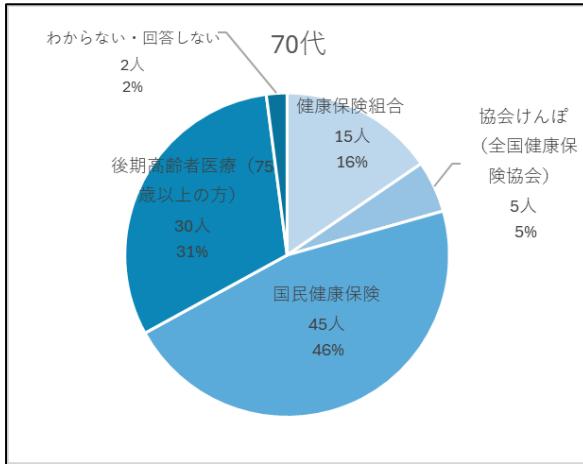


60代

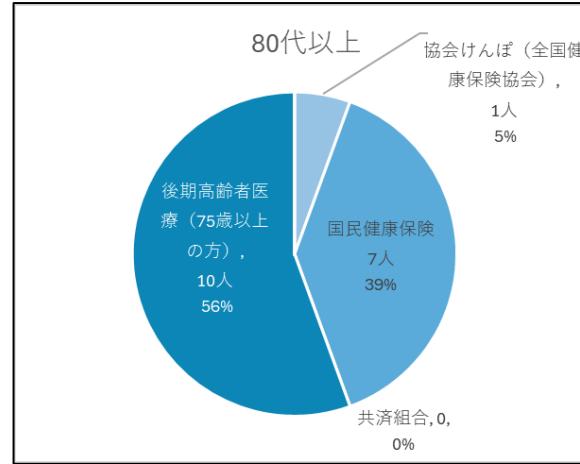


1. 各年代の保険者種別

70代

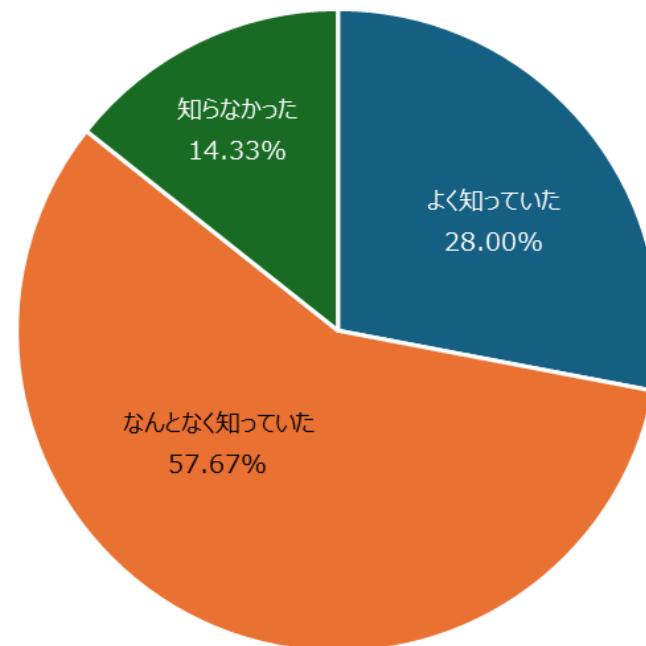


80代以上



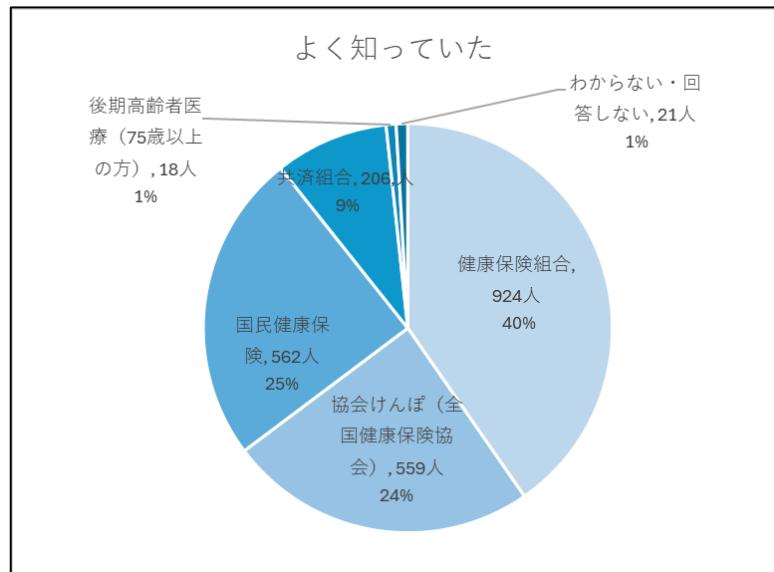
- 全体では「よく知っていた」が約28%で、危機的状況であることについて一定の理解が見られる一方、「なんとなく知っていた」という回答が最も多く、約57%で、「知らなかった」も約14%であったため、引き続き周知広報が必要と考えられる。
- 保険者別では、「よく知っていた」の割合は健保組合が約40%と最も高く、協会けんぽ・国保はいずれも約25%にとどまっている。一方、「なんとなく知っていた」は国保でやや高く、「知らなかった」は健保組合・国保と比べ協会けんぽがやや低い。
- 健保組合加入者で理解が高いのは、健保組合の周知広報などにより日頃から制度に関する情報に触れる機会が多いことが影響していると思われる。一方、健保組合と比べると他の保険者は制度等の情報に触れる機会が少ない可能性があると考えられる。

回答	数量	割合
よく知っていた	2,290	28.00%
なんとなく知っていた	4,716	57.67%
知らなかった	1,172	14.33%
総計	8,178	100%

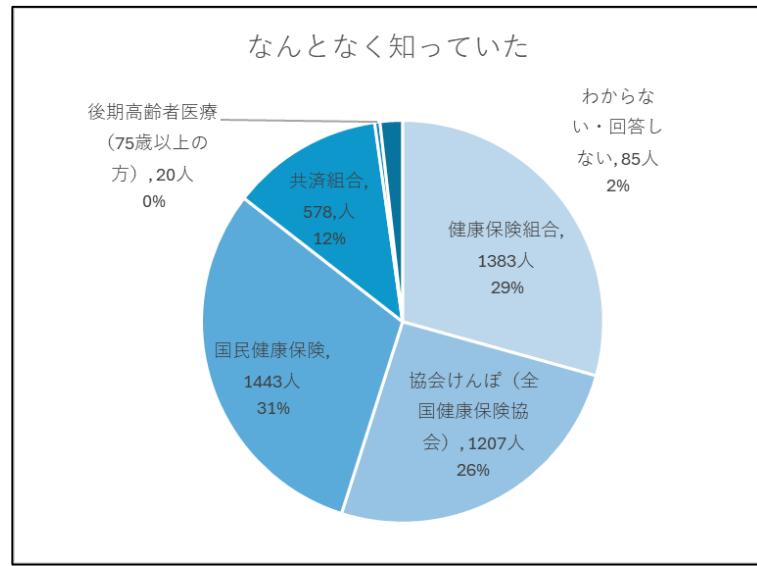


3. 各回答の保険者種別

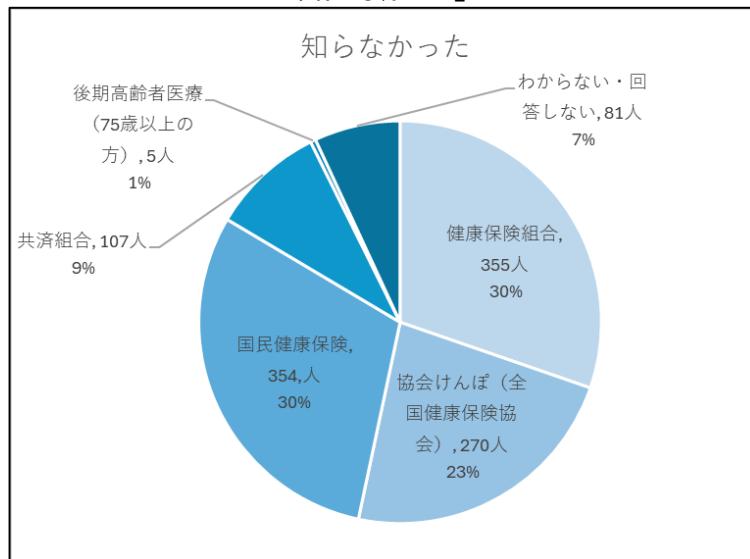
「よく知っていた」



「なんとなく知っていた」

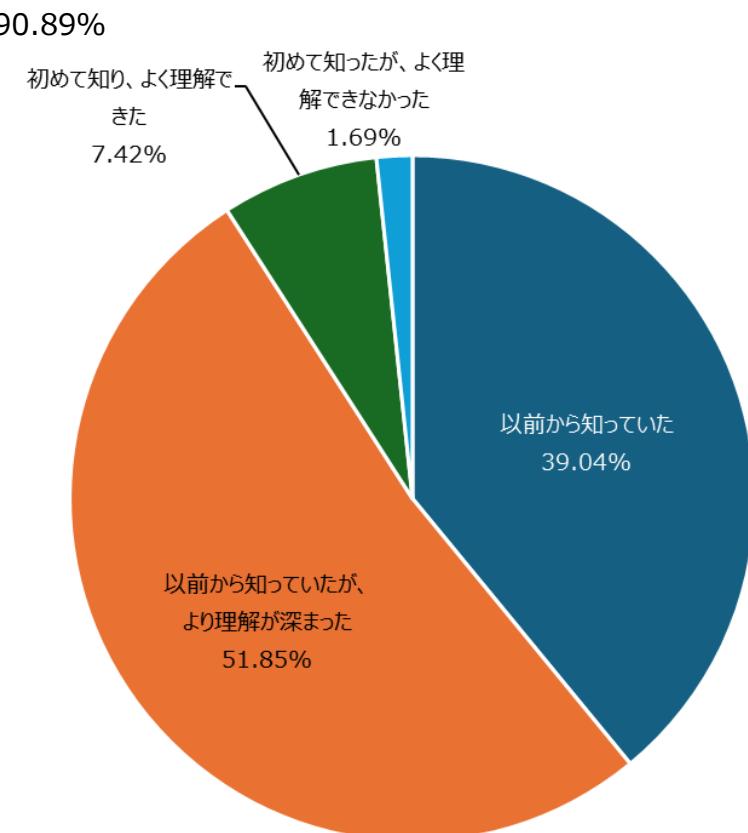


「知らなかった」



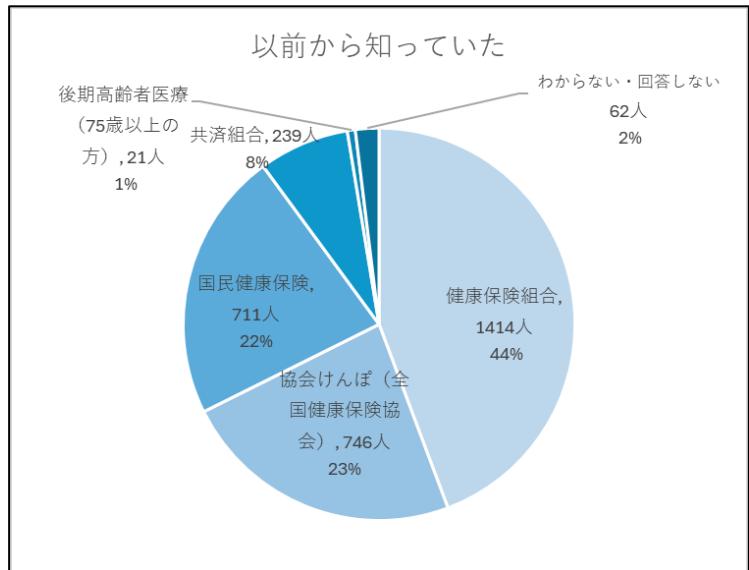
- 全体では、「以前から知っていたが、より理解が深まった」が最多で半数以上を占め、「以前から知っていた」と合わせると約9割に達している。さらに「初めて知り、よく理解できた」が約7.4%で、本施策により理解の深まりと知識の広がりがみられた。
- 保険者別では、「以前から知っていた」は健保組合が約44%で最も高く、制度に対する基礎的な理解が進んでいる。一方、「理解が深まった」「初めて知り理解できた」は国保で相対的に高く、本施策による理解の広がりがみてとれる。
- 健保組合加入者は、Q3同様、健保組合の周知広報などにより日頃から制度等に関する情報に触れる機会が多いためと思われる。一方、国保・協会けんぽは、本施策を通じて初めて内容を理解した人が一定数いたと考えられる。

回答	数量	割合
以前から知っていた	3,193	39.04%
以前から知っていたが、より理解が深まった	4,240	51.85%
初めて知り、よく理解できた	607	7.42%
初めて知ったが、よく理解できなかった	138	1.69%
総計	8,178	100%

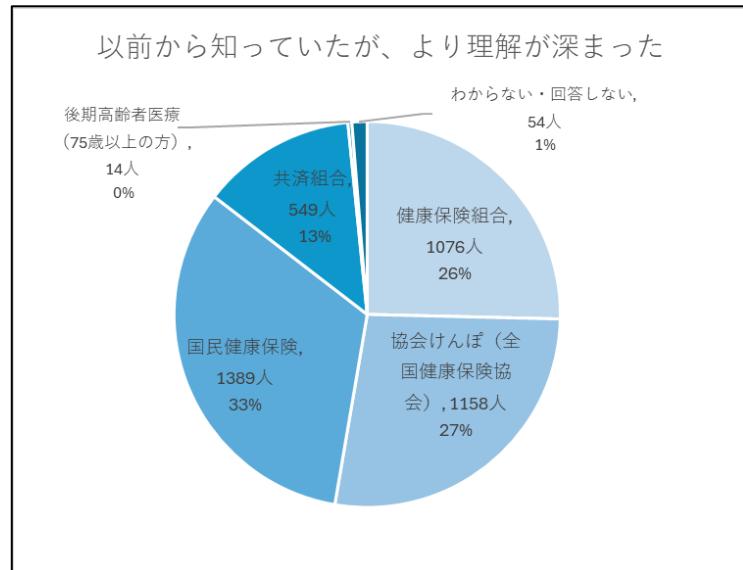


4. 各回答の保険者種別

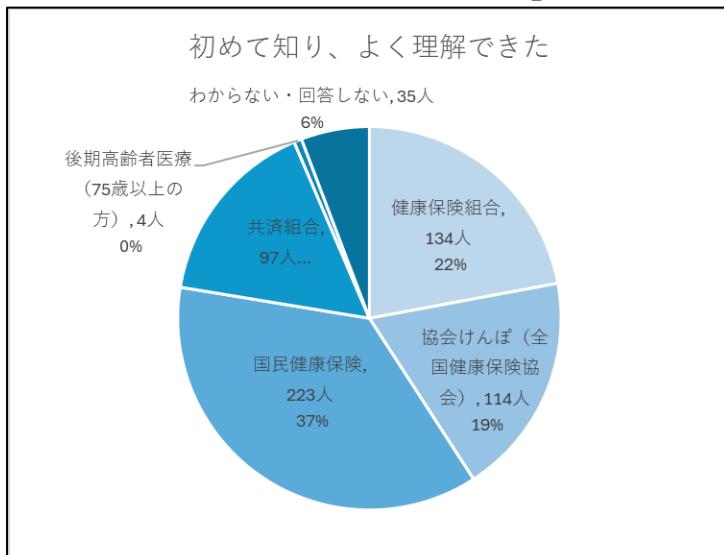
「以前から知っていた」



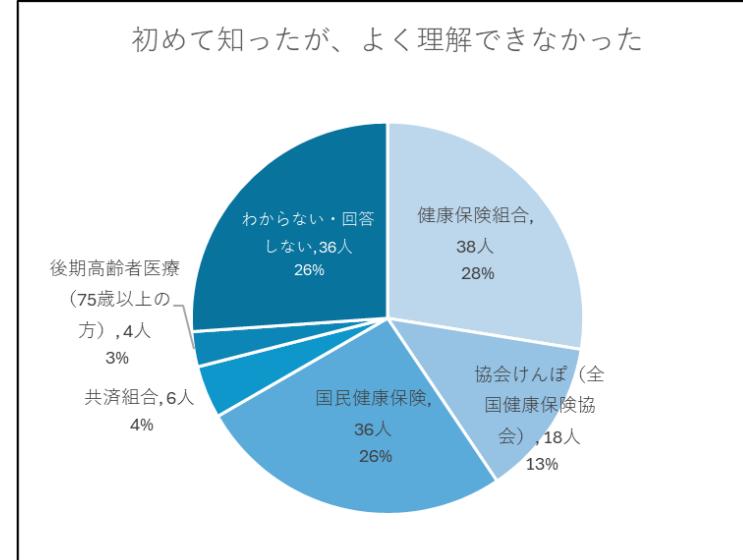
「以前から知っていたが、より理解が深まった」



「初めて知り、よく理解できた」

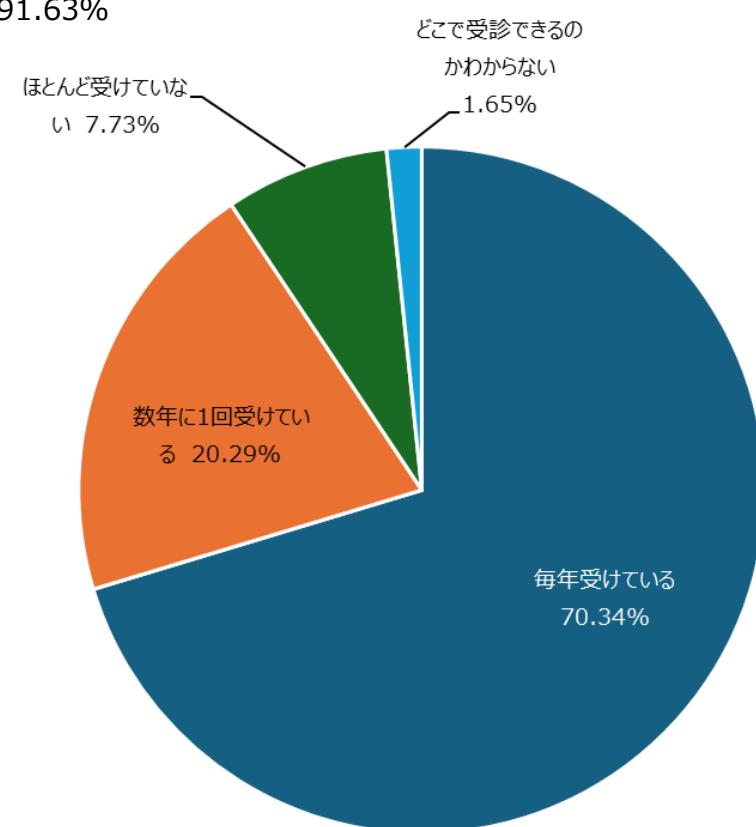


「初めて知ったが、よく理解できなかった」



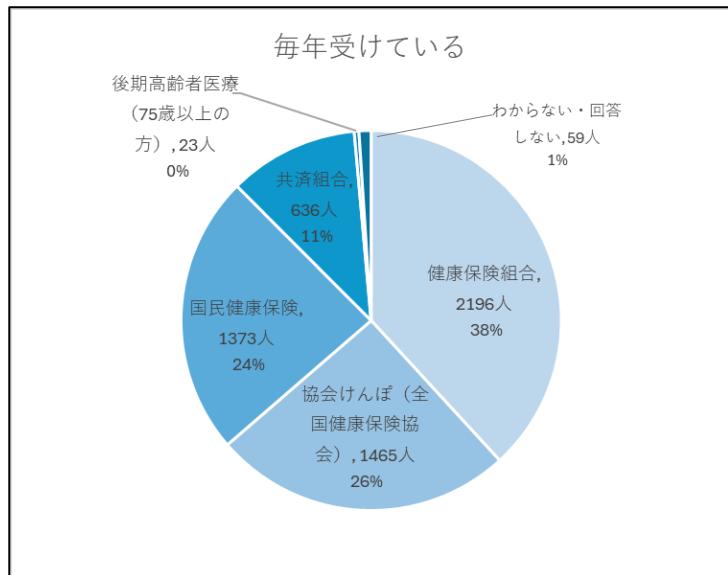
- 全体では、「毎年受けている」が最も多く約7割を占め、「数年に1回受けている」と合わせると約9割が健診を受けている一方、「ほとんど受けていない」や「どこで受診できるのかわからない」を合わせた約1割あった。
- 保険者別では、「毎年受診している」は健保組合が約38%と最も高く、健診受診が比較的定着している。一方、国保では「数年に1回」「ほとんど受けていない」の割合が高い。
- 健保組合加入者で毎年受診している人が多いのは、コラボヘルス等を通じて健診を受けやすい環境にあると思われる。一方、他の保険者は健保組合と比べると受診のきっかけが身近でないなどの理由であると思われる。

回答	数量	割合
毎年受けている	5,752	70.34%
数年に1回受けている	1,659	20.29%
ほとんど受けていない	632	7.73%
どこで受診できるのかわからない	135	1.65%
総計	8,178	100%

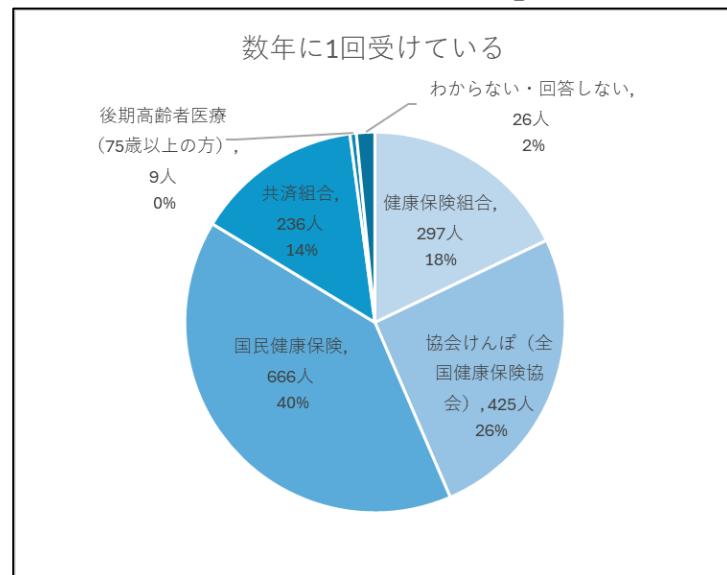


5. 各回答の保険者種別

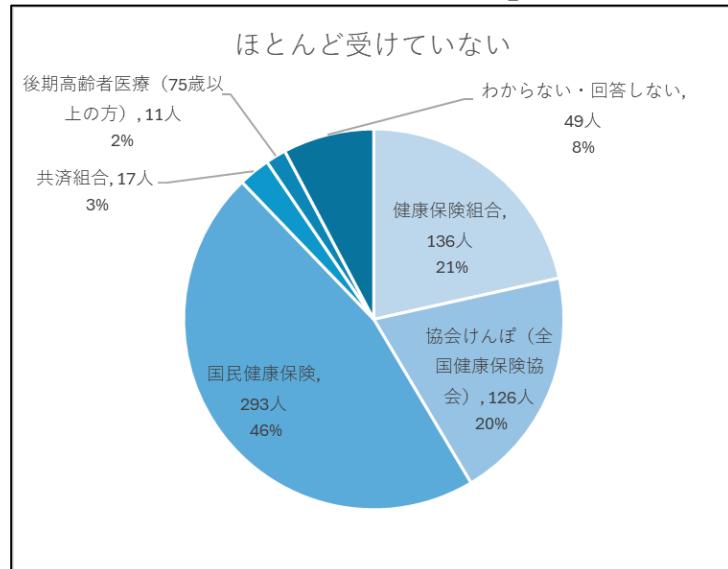
「毎年受けている」



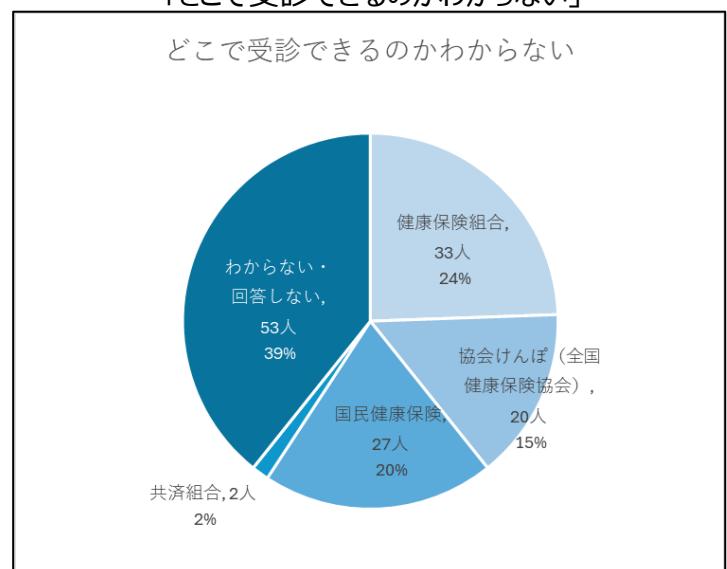
「数年に1回受けている」



「ほとんど受けていない」



「どこで受診できるのかわからない」

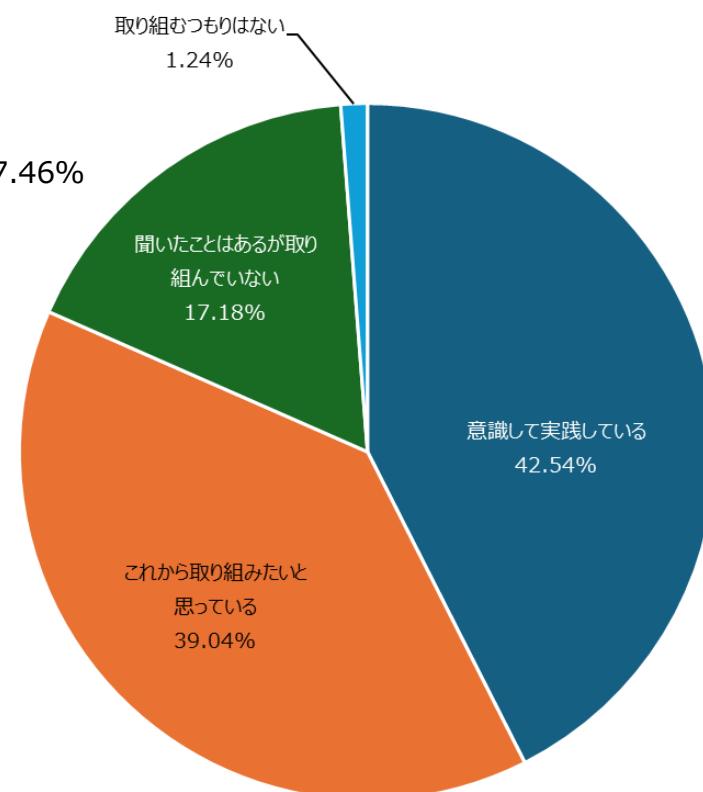


【6】セルフメディケーション（※）に取り組んでいますか？

(※) セルフメディケーション：自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること

- 全体では、「意識して実践している」が4割強で最も多くの、「これから取り組みたい」「聞いたことはあるが取り組んでいない」「取り組むつもりはない」を合わせると6割弱が未実践層であり、引き続き周知・広報が必要な状況にある。
- 保険者別では、「意識して実践している」は健保組合が約41%で最も高く、セルフメディケーションの実践が相対的に進んでいる。一方、国保・協会けんぽでは「これから取り組みたい」「聞いたことはあるが未実践」といった層が多く、実践に至っていない状況が見られる。
- 健保組合加入者で実践している人が多いのは、周知広報の努力のほか健診や保健指導などを通じて健康管理を意識する機会が多いためと思われる。また、他の保険者と健保組合の健診・保健指導の実施率の差が回答結果に表れているのではないかと思われる。

回答	数量	割合
意識して実践している	3,479	42.54%
これから取り組みたいと思っている	3,193	39.04%
聞いたことはあるが取り組んでいない	1,405	17.18%
取り組むつもりはない	101	1.24%
総計	8,178	100%

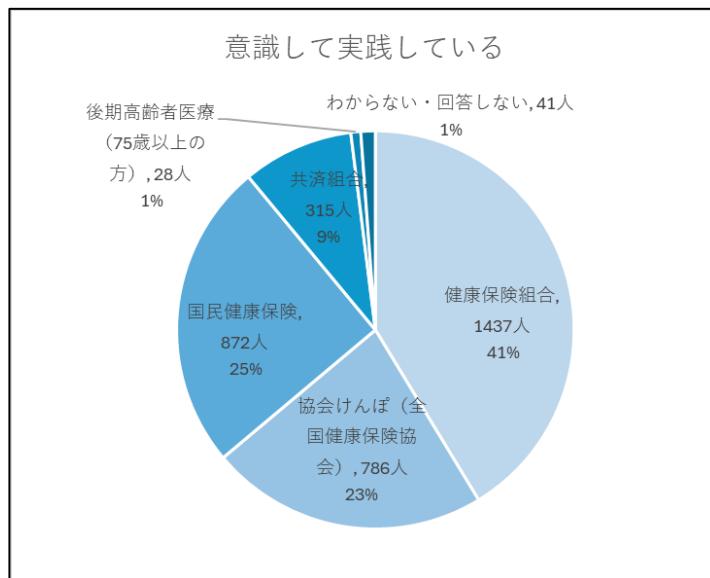


【6】セルフメディケーション（※）に取り組んでいますか？(年齢階級別回答)

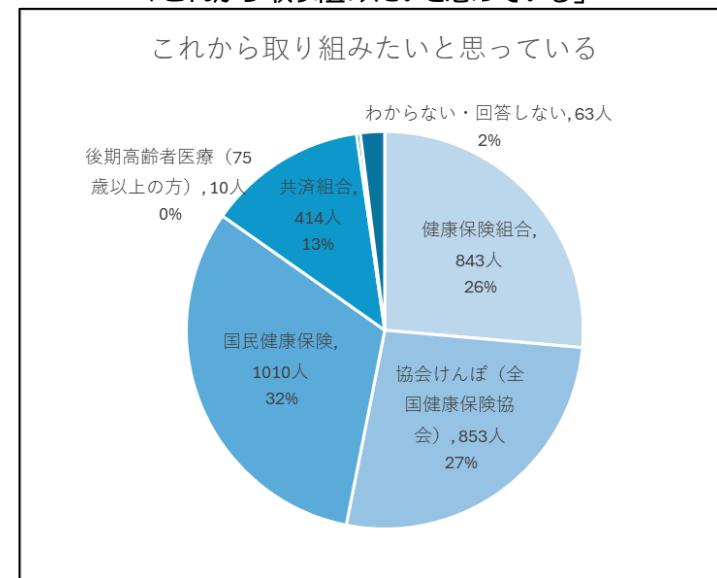
(※) セルフメディケーション：自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当すること

6. 各回答の保険者種別

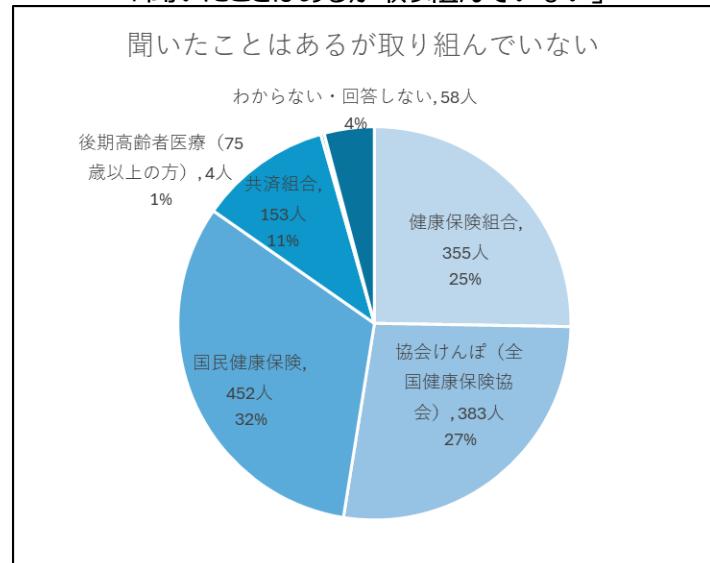
「意識して実践している」



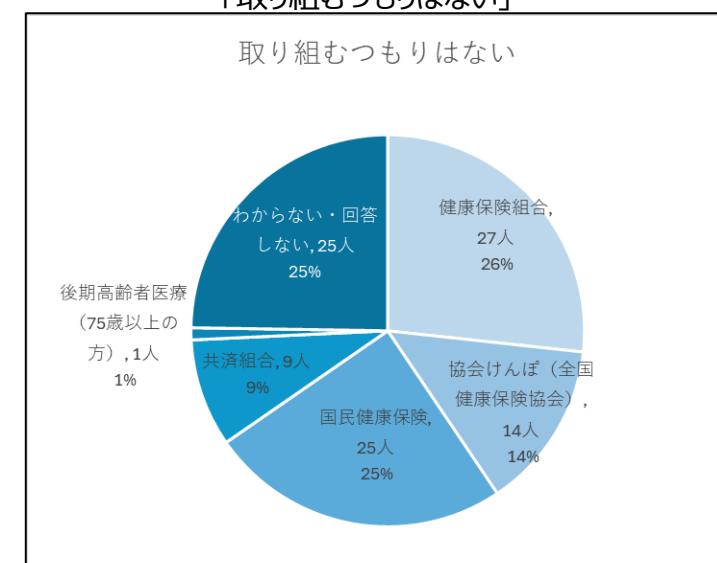
「これから取り組みたいと思っている」



「聞いたことはあるが取り組んでいない」



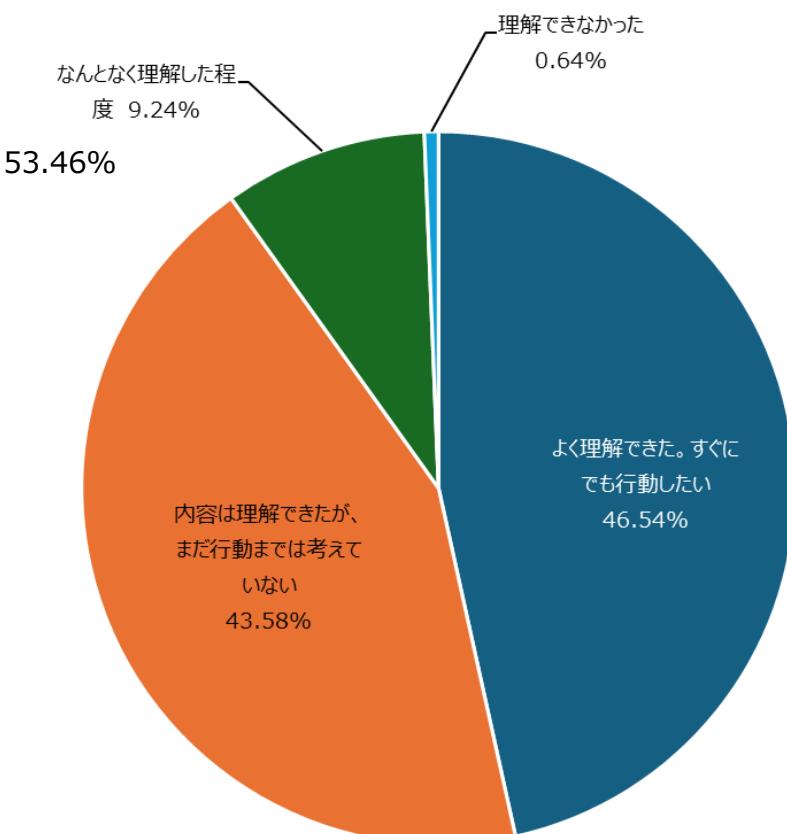
「取り組むつもりはない」



【7】「3つのお願い」の内容をご理解いただけましたか？

- 全体では、「よく理解できた、すぐにでも行動したい」が5割弱で最も多い一方、「内容は理解できたがまだ行動までは考えていない」や「なんとなく理解した程度」「理解できなかった」を合わせると約5割を超える行動につなげるためには引き続き周知・広報が必要な状況である。
- 保険者別では、「すぐにでも行動したい」は健保組合が約43%で最も高く、理解から行動への移行が相対的に進んでいる一方で、国保・協会けんぽでは「理解したが行動までは考えていない」など、行動に至る前段階の層が一定数存在する。
- 健保組合加入者は、他の保険者に比べると健保組合の周知広報、保健事業など健保組合との接触する機会も多いことから、理解がそのまま行動につながっている人が多いと思われる。

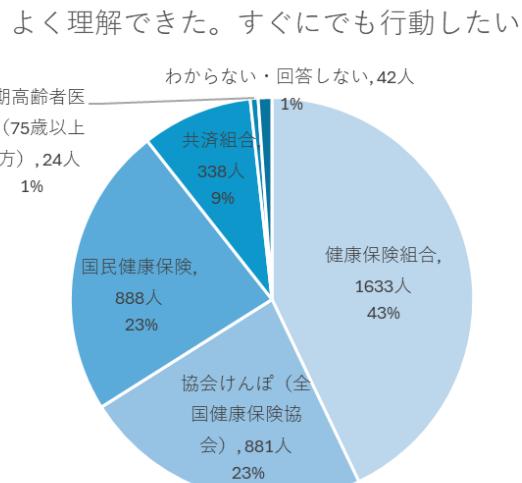
回答	数量	割合
よく理解できた。すぐにでも行動したい	3,806	46.54%
内容は理解できたが、まだ行動までは考えていない	3,564	43.58%
なんとなく理解した程度	756	9.24%
理解できなかった	52	0.64%
総計	8,178	100%



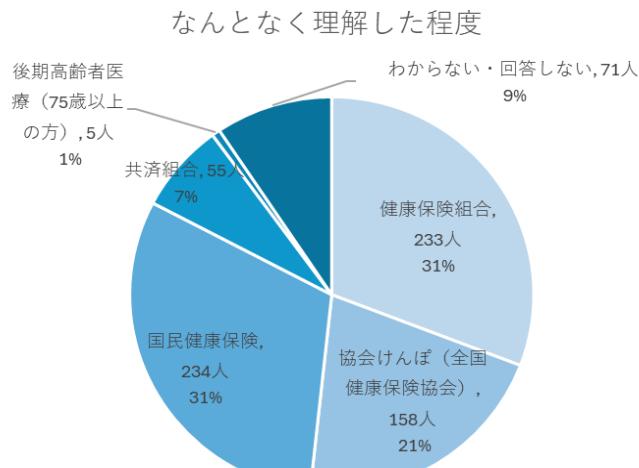
【7】「3つのお願い」の内容をご理解いただけましたか？

7. 各回答の保険者種別

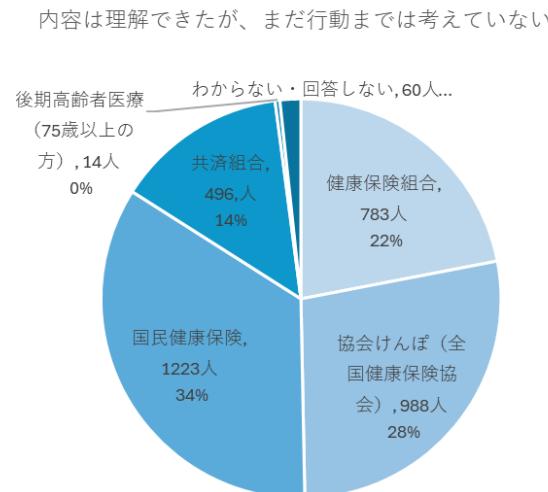
「よく理解できた。すぐにでも行動したい」



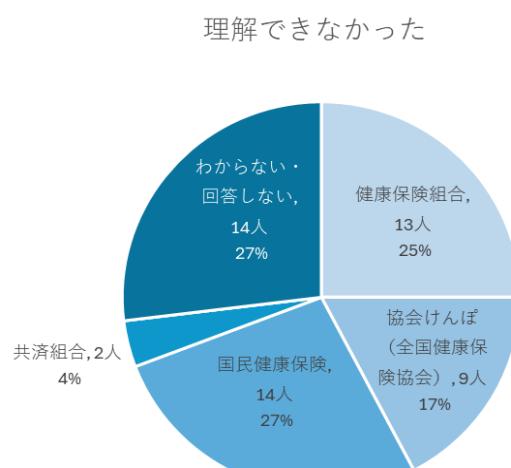
「なんとなく理解した程度」



「内容は理解できたが、まだ行動までは考えていない」



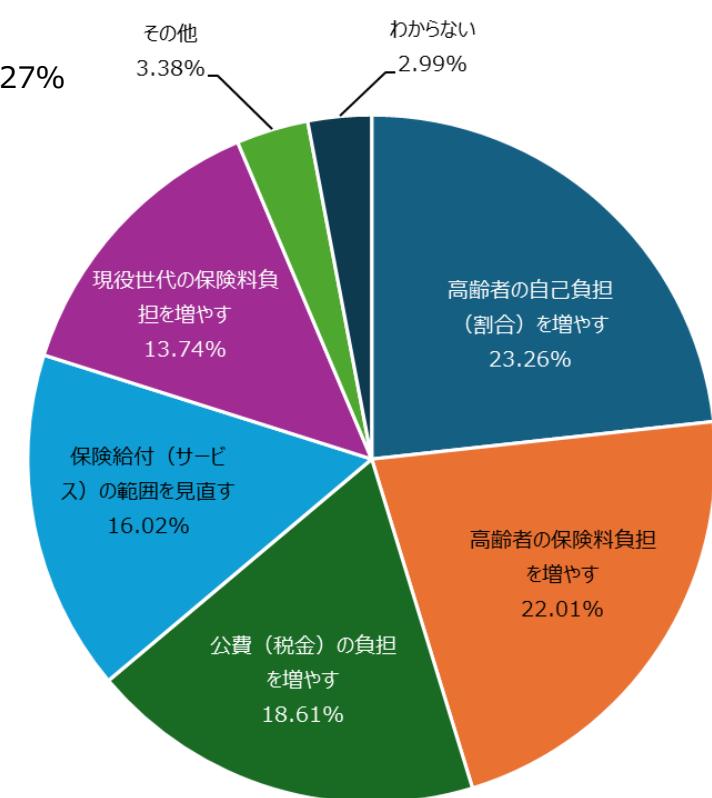
「理解できなかった」



- 「高齢者の自己負担（割合）を増やす」と「高齢者の保険料負担を増やす」の2つの回答が他と比べて多く、続いて、「公費（税金）の負担を増やす」「保険給付（サービス）の範囲を見直す」「現役世代の保険料負担を増やす」の順となった。

回答	数量	割合
高齢者の自己負担（割合）を増やす	3,511	23.26%
高齢者の保険料負担を増やす	3,323	22.01%
公費（税金）の負担を増やす	2,809	18.61%
保険給付（サービス）の範囲を見直す	2,418	16.02%
現役世代の保険料負担を増やす	2,074	13.74%
その他	511	3.38%
わからない	451	2.99%
総計	15,097	100%

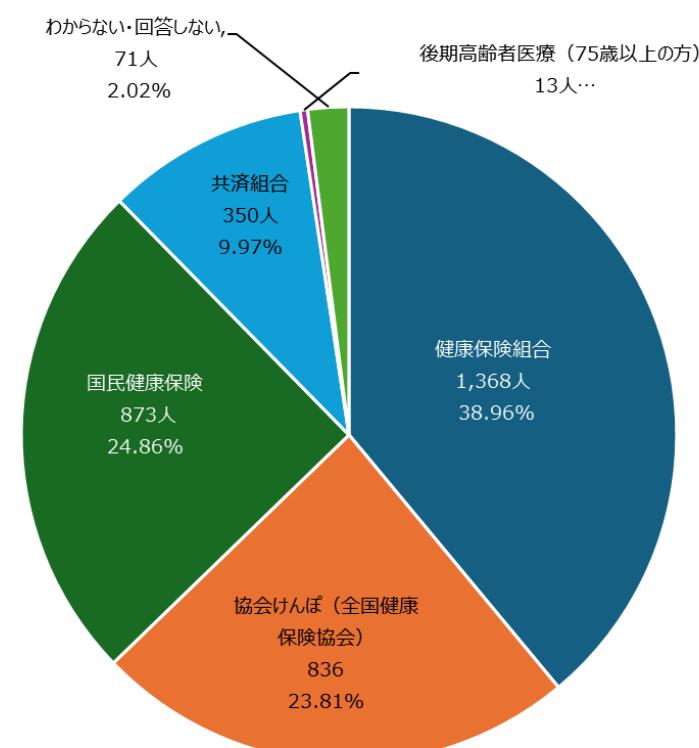
45.27%



- ・「高齢者の自己負担（割合）を増やす」については、「健康保険組合」層の回答割合が最も多く、約40%であった。
- ・次いで「国民健康保険」「協会けんぽ」層となる。
- ・健保組合加入者の回答が多いのは、Q3Q4の結果からもわかるように制度の状況や仕組みを理解されている方が比較的多く、高齢者の負担割合が現役世代と比べて低く、制度上のアンバランスが生じていることの理解が進んでいるためと思われる。

Q.8で「高齢者の自己負担（割合）を増やす」回答者の加入保険種別

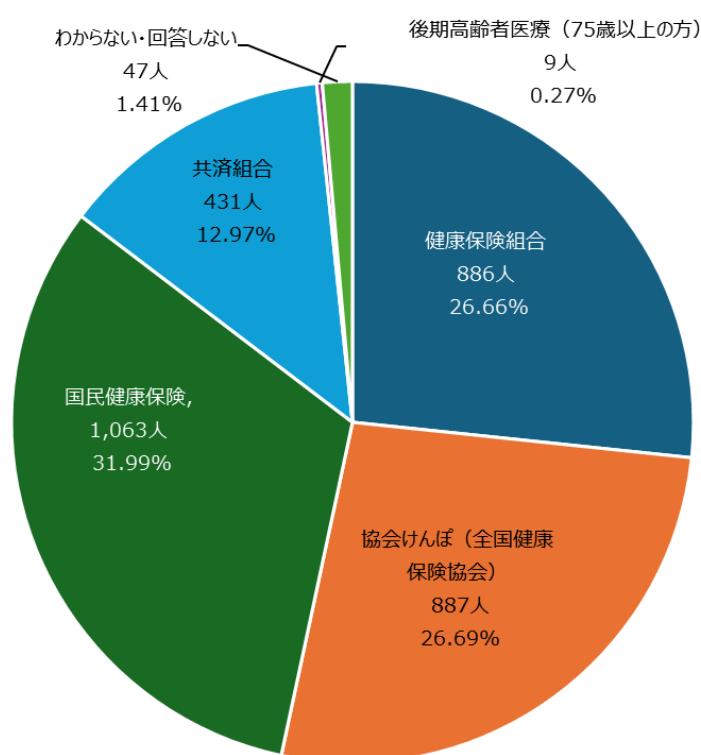
種類	数量	割合
健康保険組合	1,368	38.96%
協会けんぽ（全国健康保険協会）	836	23.81%
国民健康保険	873	24.86%
共済組合	350	9.97%
後期高齢者医療（75歳以上の方）	13	0.37%
わからない・回答しない	71	2.02%
総計	3,511	100%



- ・「高齢者の保険料負担を増やす」については、「国民健康保険」層の回答割合が最も多く、30%超であった。
- ・次いで「健康保険組合」と「協会けんぽ（全国健康保険協会）」層は同じ割合であった。
- ・国保加入者は、高齢者の自己負担（割合）だけでなく、保険料の負担も必要と考えられた可能性があると思われる。

Q.8で「高齢者の保険料負担を増やす」回答者の加入保険種別

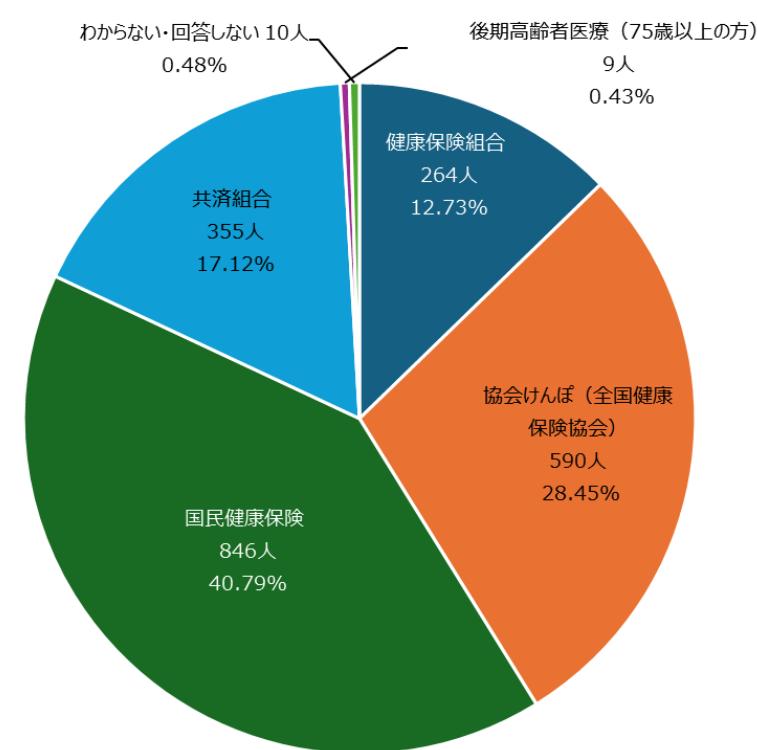
種類	数量	割合
健康保険組合	886	26.66%
協会けんぽ（全国健康保険協会）	887	26.69%
国民健康保険	1,063	31.99%
共済組合	431	12.97%
後期高齢者医療（75歳以上の方）	9	0.27%
わからない・回答しない	47	1.41%
総計	3,323	100%



- 「現役世代の保険料負担を増やす」「国民健康保険」層の回答割合が最も多く、40%超であった。
- 次いで「協会けんぽ（全国健康保険協会）」層が多かった。「健康保険組合」層は、「共済組合」層よりも回答割合が低かった。
- 国保や協会けんぽでは、健保組合加入者と比べ現役世代の負担の重さについて理解が十分でない可能性があり、高齢者だけでなく現役世代も保険料負担を増やすと考えられたと思われる。

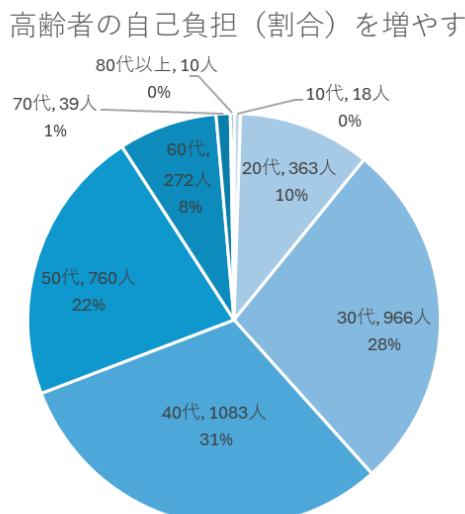
Q.8で「現役世代の保険料負担を増やす」回答者の加入保険種別

種類	数量	割合
健康保険組合	264	12.73%
協会けんぽ（全国健康保険協会）	590	28.45%
国民健康保険	846	40.79%
共済組合	355	17.12%
後期高齢者医療（75歳以上の方）	9	0.43%
わからない・回答しない	10	0.48%
総計	2,074	100%

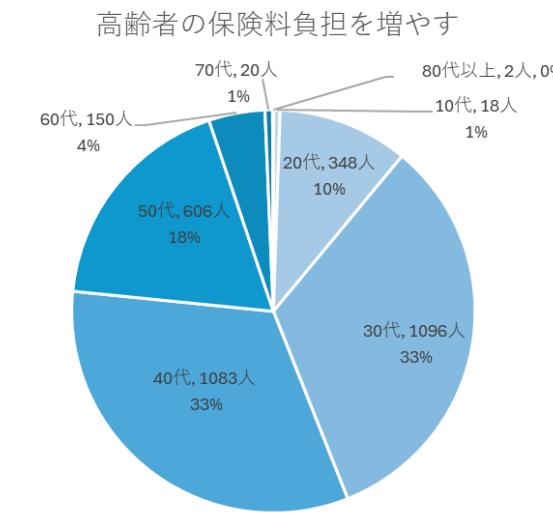


Q.8 各回答の年齢割合

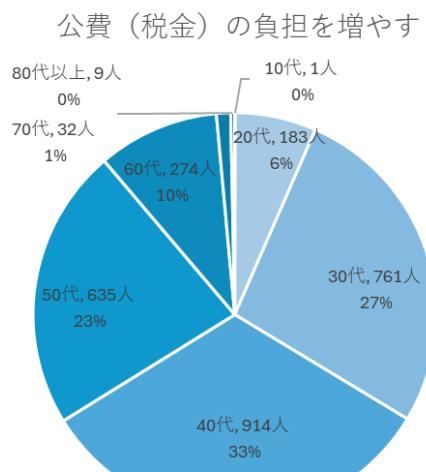
「高齢者の自己負担（割合）を増やす」



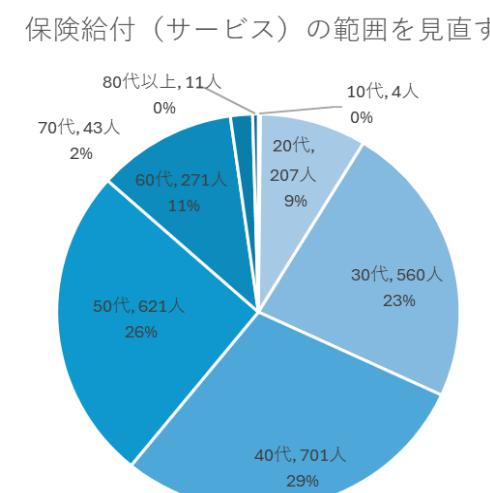
「高齢者の保険料負担を増やす」



「公費（税金）の負担を増やす」



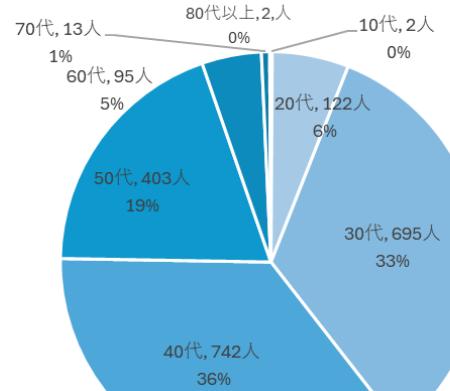
「保険給付（サービス）の範囲を見直す」



Q.8 各回答の年齢割合

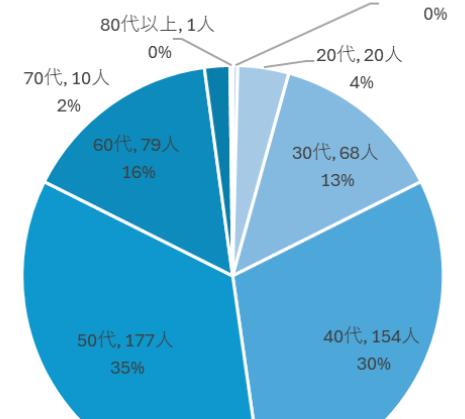
「現役世代の保険料を増やす」

現役世代の保険料負担を増やす



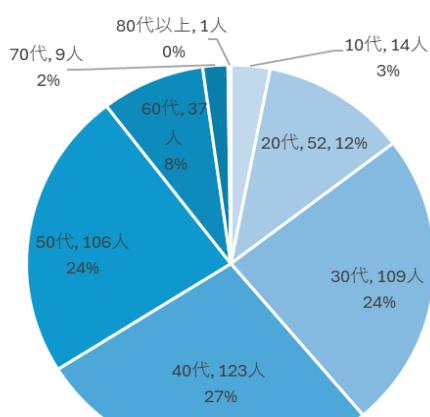
「その他」

その他



「わからない」

わからない



主な意見

1. 高齢者医療と負担の在り方

▽所得・資産の多い高齢者については、窓口負担や保険料の引き上げ、収入比例の応能負担など、負担能力に応じた見直しを行うべき▽湿布や軽い症状での受診、薬の出し過ぎ、重複受診など高齢者医療の利用の多さを踏まえ、給付水準の調整や、延命治療・終末期医療の線引きを含む制度整理を行うべき—など

2. 所得・負担能力に応じた公平な負担

▽高所得者・富裕層の負担強化や、収入・資産状況に応じた負担設定など、応能負担を徹底すべき▽被扶養者、生活保護など負担のない層にも一定の負担を求め、負担の範囲を広げるべき—など

3. 公費投入の在り方と財源確保

▽防衛費・海外支援・行政経費など社会保障以外の歳出を見直し、医療・福祉に再配分すべき▽公費投入の拡大や消費税等による財源確保、無駄遣いの削減など、財源の再構築を行うべき—など

4. 受診行動・予防・意識啓発による医療費適正化

▽セルフメディケーションやジェネリックの活用、生活習慣の改善など、行動変容を通じた医療費適正化の必要性▽マイナンバー等デジタル活用による重複受診・多剤投与・不正利用の防止、外国人医療・生活保護医療の適正化など制度運用の見直しを行うべき▽予防医療の重視や、予防に取り組んだ場合のインセンティブ（保険料還元等）の導入を求める—など

①「3つのお願い」に基づく“みどりのアクション”への主な意見

▽市販薬の活用や軽い症状の自己対処に前向きな声がある一方で、どの薬を選べばよいか判断が難しく、誤ると悪化が心配という不安▽健診が早期発見につながったという実感があるものの、忙しさや優先順位の低さから受診が後回しになる現状への指摘▽医療保険制度の仕組みや給付内容が分かりづらく、SNSや動画などで簡潔に伝えてほしい▽“みどり”的メッセージは分かりやすいとの評価と、抽象的で若い世代には響きにくいという指摘が混在—など

②日本の医療保険制度についての主な意見

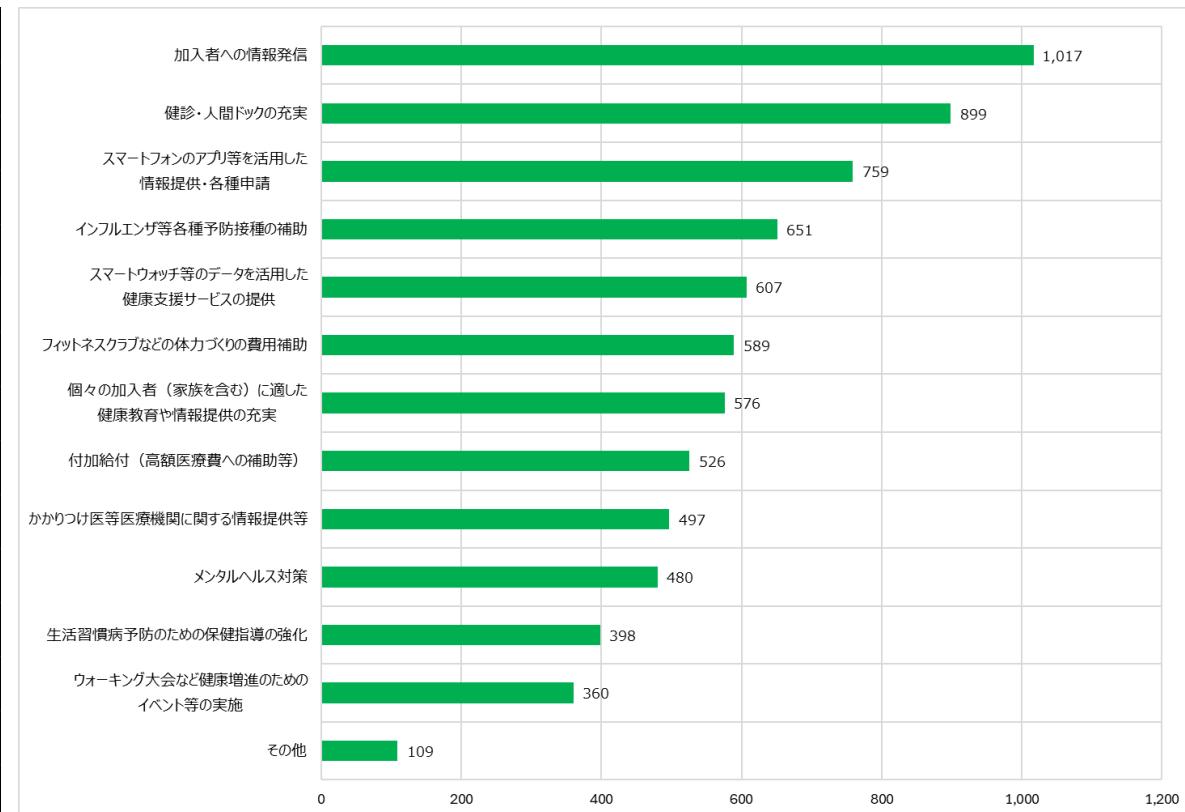
▽湿布の受診や薬だけをもらう通院、ひまつぶし受診、多剤併用や残薬の発生など、必要性の低い医療利用が医療費を押し上げている▽高齢者の受診頻度の高さや薬の大量処方、軽い不調ですぐ受診する傾向など、利用と負担のバランスに対する問題意識▽生活保護や低負担層の頻回受診や“無料ゆえの過剰利用”に受診抑制が働きにくい▽外国人による未払い・制度悪用の懸念▽現役世代の負担の重さや制度の複雑さ、将来の制度維持への不安など、持続可能性に対する危機感—など

③健康保険組合があつてよかったと思ったこと

▽入院や手術の際に付加給付により負担が大きく軽減され、家計面で助かった▽健診・人間ドック補助、がん検診、健康増進プログラムやイベントなどが“健康づくりのきっかけ”になった▽手続き説明や問い合わせ対応が丁寧で、制度が複雑な中でも分かりやすく案内してくれた点に“身近で頼れる存在”と感じた—など

- 「加入者への情報発信」の回答が一番多く、続いて「健診・人間ドックの充実」、「スマートフォンのアプリ等を活用した情報提供・各種申請」となった。上記3件の回答割合は喫緊した数値であった。他に「インフルエンザ等各種予防接種の補助」、「スマートウォッチ等のデータを活用した健康支援サービスの提供」に続く。
- 各取り組みも回答数にばらつきはあるが、まんべんなく回答があった。

回答	数量	割合
加入者への情報発信	1,017	13.62%
健診・人間ドックの充実	899	12.04%
スマートフォンのアプリ等を活用した情報提供・各種申請	759	10.16%
インフルエンザ等各種予防接種の補助	651	8.72%
スマートウォッチ等のデータを活用した健康支援サービスの提供	607	8.13%
フィットネスクラブなどの体力づくりの費用補助	589	7.89%
個々の加入者（家族を含む）に適した健康教育や情報提供の充実	576	7.71%
付加給付（高額医療費への補助等）	526	7.04%
かかりつけ医等医療機関に関する情報提供等	497	6.66%
メンタルヘルス対策	480	6.43%
生活習慣病予防のための保健指導の強化	398	5.33%
ウォーキング大会など健康増進のためのイベント等の実施	360	4.82%
その他	109	1.46%
総計	7,468	100%



1. 情報発信の強化

▽医療制度・保険料の仕組み、国民皆保険の危機的状況などを、SNSや動画、WEB配信などでわかりやすく周知してほしい▽先発薬とジェネリックの違い、セルフメディケーションの仕組みや常備薬知識、生活習慣病予防など、日常生活に役立つ情報提供の強化▽高齢者への健康教育、介護情報、健康寿命延伸のための生活習慣支援、経営者への健康増進評価など、幅広い分野での啓発▽冊子の紙配布からWEBへの移行、正確な情報が目に触れる機会を増やすべき—など

2. 制度全体の公平性、持続可能性の確保

▽不必要的処方や接骨院利用、重複受診、過剰給付の見直し▽高齢者負担の見直し、高額療養費区分の再検討、リフィル処方の義務化、リスクに応じた負担設定▽健保から高齢者への拠出見直し、制度そのもののバランス調整などの構造改革▽保険料の負担軽減の要望—など

3. 国・行政への働きかけ

▽医療制度改革、高齢者負担の在り方、納付金制度の見直しなど、国への制度提言を強化すべき▽社会保障以外の歳出見直し、少子化対策など、より広い政策課題への働きかけ▽マイナ保険証義務化、医療費データに基づく提言、政治的口説活動の強化—など

4. 補助制度・インセンティブの充実

▽予防接種補助（家族含む）、フィットネス・運動支援、稀少疾病支援、歯科検診補助などの拡大▽健康行動へのインセンティブ（年間未使用者の優遇など）を導入してほしい▽マラソン大会や保養施設・旅行補助など、楽しみながら健康を維持できる取り組み—など

5. 健康支援サービス・健診の改善

▽気軽に利用できる運動施設、宅トレアプリ、健康ゲームやポイント制度▽冊子廃止や整骨院受診者への通知見直し▽健診内容の見直し（胃カメラ標準化、婦人科検診の拡充、本当に必要な項目の精査など）—など

6. 業務効率化

▽無駄な事業や外注の削減、費用対効果の低い取り組みの見直し、配布物の削減▽各種申請のオンライン化、書類作業の削減、窓口対応の充実など、DXによる業務効率化—など